

## 平和への誓い

昭和20年(1945年)8月6日、午前8時15分。一瞬にして広島<sup>いつしゅん</sup>の街は何もかも破壊<sup>はかい</sup>されました。原子爆弾<sup>げんしぼくだん</sup>は、高温と爆風で人々をおそい、さらに死の放射能で街を汚染<sup>おせん</sup>していきました。そして、その年の終わりまでに約14万人もの命が失われました。14万の夢や希望、未来<sup>うば</sup>が奪われ、数え切れないほどの悲しみが生まれたのです。

平成17年(2005年)11月22日。私たちの身近なところで、とても悲しい、辛い<sup>つら</sup>事件が起きました。その事件によって、私たちが当たり前だと思っていた日常<sup>こわ</sup>は壊れてしまいました。好きな友だちとおしゃべりしながら登下校したり、一人で外へ出ることもできなくなりました。そして、私たちは事件を通して、一つの命の重みを知りました。

この時奪われた命も、原子爆弾や戦争で奪われた多くの命も同じ命です。一つの命について考えることは、多くの命について考えることにつながります。命は自分のものだけでなく、家族のものであり、その人を必要としている人のものでもあるのです。

「平和」とは一体何でしょうか。

争いや戦争がないこと。いじめや暴力、犯罪、貧困、飢餓<sup>きが</sup>がないこと。

安心して学校へ行くこと、勉強すること、遊ぶこと、食べること。

今、私たちが当たり前のように過ごしているこうした日常も「平和」なのです。

世界中のどこの国も「平和」であるために、今必要なことは、自分の考えを伝えること、相手の考えを受け入れること、つまりお互いの心を開くことです。人間は言葉をもっています。心を開けば対話も生まれ、対話があれば争いも起きないはずです。

そして、自分だけでなく他の人のことを思いやること、みんなと仲良くすることも「平和」のためにできることです。

私たちはこれまで、祖父母や被爆者の方から体験を聞いたり、「平和」について学習したりする中で、原爆や戦争のことについて学んできました。しかし、まだまだ知らないことがたくさんあります。これからもヒロシマで起きた事実に学び、それを伝えていかなければなりません。

私たちは、命を大切にし、精一杯<sup>いっぱい</sup>生きることを誓<sup>ちか</sup>います。

私たちヒロシマのこどもは世界中の国々や人々との間の架け橋<sup>か</sup>となり、「平和」の扉<sup>とびら</sup>を開くために一步一步、歩み続けていくことを誓います。

平成18年(2006年)8月6日

こども代表 広島市立南観音小学校6年 新谷<sup>しんたに</sup> 望<sup>のぞむ</sup>  
広島市立楽々園小学校6年 スミス・アンジェリア